

Case 26-2014: A 21-Month-Old Boy with Lethargy, Respiratory Distress, and Abdominal Distention  
(New England Journal of Medicine 2014 August 21; 371(8):767-773.)

【小児の救急対応】

ABC の順でアセスメント。そのあと DDDE にうつる。

Disability(神経学的状態) → 呻吟かつ痛み刺激にのみ反応

Dextrose(血糖) → 血糖はわずかに上昇のみ(全身性のストレスによるものだろう)

Drugs(薬物、毒物) → 薬物毒物暴露や外傷を示唆する明らかな徴候はない

full Exposure(もれなく診察、モニターや L/D も) → 緊急蘇生と並行してさらなる原因探索を

【時間軸が大事！】

最初の症状が出てから 24 時間以内にここまで悪くなっている。

最初の症状は下痢、そのあと嘔吐と経口摂取拒否。

輸液でよくなった後、12 時間以内に症状悪化。この間に嗜眠、あえぎ、腹部膨満が出現、悪化。

相手は小児(しかも嗜眠状態)だし、両親も英語が通じない。おそらくこれ以上の情報収集は困難。

以上より、小児における Altered mental status と腹部膨満の鑑別診断をそれぞれ考え、それを統合する。

**AMS の鑑別診断**

外傷(事故、虐待) 腸重積 感染症(脳炎、髄膜炎) 中毒(毒物) ショック アルコール中毒(事故)

脳症 てんかん(不顕性発作) 先天性代謝異常 オピオイド 尿毒症

**腹部膨満の鑑別診断**

消化管閉塞(腸重積、腸捻転を伴う回転異常) 外傷(肝裂傷、脾裂傷、free air)

胃腸疾患(他院泊漏出性胃腸炎、便秘、感染・電解質異常・毒物によるイレウス)

感染症(腹膜炎を伴う虫垂炎、急性細菌性・ウイルス性胃腸炎、膿瘍、敗血症、肺炎、ボツリヌス)

腫瘍(Wilms 腫瘍、神経芽腫、白血病、リンパ腫)

腎疾患(腎腎症、閉塞性腎症、多嚢胞性腎、ネフローゼ)

以上より、本症例の鑑別診断→**腸重積、感染症、毒物、外傷、(可能性低いけど)不顕性発作**

【データのここに注目！】

Na 139, Cl 105, AG 27

→アニオンギャップ増大性代謝性アシドーシス ただし乳酸は 1.6 で正常

なお、WBC が 40600 なのは、感染症より全身のストレスによるものである可能性が高い。

アニオンギャップ増大性代謝性アシドーシスの鑑別診断 “CAT MUDPILES”

Cyanide, Carbon monoxide, Congestive heart failure, Aminoglycosides, Theophylline, Methanol, Uremia, Diabetic/alcoholic/starvation ketoacidosis, Paraldehyde, Paracetamol (acetaminophen), Phendormin, Iron, Isoniazid, Inborn errors of metabolism, Lactic acidosis, Ethanol, Ethylene glycol, Salicylate

この症例であり得るのはアセトアミノフェン、サリチル酸、鉄剤、メタノール。ただし、鉄剤とメタノールは特異的な症状が見られていない+アシドーシスがそこまでではないのでどちらかというとな否定的。

ここで、両親によくよく話を聞いてみると、患者が3歳の兄に何かの錠剤を渡していたことが発覚。家には子供には開けられない瓶に入っているアスピリンがあるとのこと。血中サリチル酸を測定すると728mg/Lであった。

というわけで最終診断は… サリチル酸中毒！！

【サリチル酸中毒について(パール集)】

AG 増大型代謝性アシドーシスをおこす物質の多くは、AMS、呼吸窮迫、頻脈を起こす。しかし、高体温は、サリチル酸中毒だけに見られる症状である。

中枢神経を侵し、多彩な精神神経症状を呈する。

代謝性アシドーシス+呼吸性アルカローシスの混合型を呈する。

耳鳴など聴覚異常も起こすことがある。消化管を腐食して嘔吐、吐血を起こすことがある。

サリチル酸中毒の3徴：耳鳴、発熱、頻脈

たとえ血中サリチル酸濃度が正常域(100-200mg/L)でも、サリチル酸中毒を否定してはいけない！

消化管運動の低下、経口摂取したサリチル酸の非常に不安定な吸収動態により、まだ血中濃度が上昇していないだけかもしれない。また、血清 pH の変化により、サリチル酸の分布容積は大きく変化する。

治療は活性炭、輸液と血清・尿のアルカリ化、そして血液透析。

本症例でのその後の経過は以下の通り。

